



©Yoshinori Kurosawa

小林有沙 Arisa Kobayashi

浜松生まれ。その後テキサス州で過ごし、帰国後4才よりピアノを始める。小学校から中学を通して数々のコンクールに入賞。桐朋女子高等学校音楽科2年時には全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第3位を受賞。同高校を優秀な成績で卒業し、同年第1回クールシュベール音楽祭inともべにて優秀音楽賞を受賞した。桐朋学園音楽大学に進学したのち、ロームミュージックファンデーションより奨学金を得て、ベルリン芸術大学へ留学。卒業後、ウィーン国立音楽大学ポストグラデュエートコースにてさらに研鑽を積み、2013年活動の拠点を日本に移す。

銀座王子ホール、ヤマハホールなどでのソロ・リサイタルや、ニューヨーク・フィル首席奏者らとの3度にわたる室内楽の共演は雑誌「ショパン」や「音楽の友」で、「心技ともに充実した実力を背景に、演奏会は新人とは思えぬ完成度の高い見事な出来栄えだった」「この難曲(バッハ=ブゾーニのシャコンヌ)を力強くしかも気高く弾きこなした小林有沙の力は、既に当代一流」と絶賛された。15年11月には飯森範親氏指揮・山形交響楽団と共演し、好評を博す。その他、山田和樹氏、瀬山智博氏指揮によるベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番と第5番を共演する等、現在、リサイタルや室内楽、協奏曲等で活躍している。また、確かな音楽作りにおいて共演ピアニストとしての信頼も厚い。

09年、第3回横浜国際音楽コンクール一般の部で5位入賞し併せてリスト賞、第5回ルーマニア国際音楽コンクールでは3位受賞。10年ウィーンにおけるデイヒラー音楽コンクールで2位受賞。12年モロッコ王妃国際ピアノコンクールにて、審査員満場一致で優勝し、併せて特別賞として最優秀ドビュッシー演奏家賞も受賞。

これまでに上田和代、岡本美智子、有森博、伊藤恵、横山幸雄、Pascal DEVOYON、Jan Gottlieb JIRACEKの各氏に師事し、室内楽を野平一郎氏に学ぶ。昭和音楽大学非常勤講師。日本ショパン協会正会員。日本ピアノ教育連盟会員。

13年12月、オクタヴィア・レコードより「シューマン：幻想曲、リスト：愛の夢 第3番 他」でCDデビュー。16年2月、セカンドアルバム「ラフマニノフ：ピアノ・ソナタ 第2番」をリリース。2枚共に「レコード芸術」誌の準特選盤に選ばれた。2018年7月、3枚目となる最新アルバムをリリース予定。